

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成26年6月30日 NO.28 (128)

モンタ博士 「花ちゃん・オー君。いよいよ明日（あした）から7月だ。しっかりお勉強（べんきょう）のまとめをやって、楽（たの）しい夏休みをむかえようね。」

花ちゃん 「わかりました。ところで、今日はどんなお話（はなし）をしてくれるのですか。」

モンタ博士 「そうだな。それでは、『種（たね）のたび』のお話をしよう。」

オー君 「種のたび？あ！思い出した。タンポポの綿毛（わたげ）がふわふわしたり、カエデのプロペラがくるくるするやつだ。」



モンタ博士 「そのとおりだね。よく覚（おぼ）えていたね。」

花ちゃん 「それから、ドングリが重（おも）いから落ちるのも、種のたびですね。」



モンタ博士 「そうだね。落ちた時の場所が、川だったら、どんぶらこっこと水に流されるのも、種のたびだね。モダマという大きな豆は、海の上をプカプカとうかんで、あちこちに旅するそうなんだ。」



オー君 「風や水など自然の力は大きいですね。」

モンタ博士 「そうだ。自然の力は大きいね。ところで、木の実が赤く色づいたりして、鳥さんに食（た）べられて運（はこ）ばれるのも種のたびだけど、これは自然の力ではないね。」

花ちゃん 「つまり、動物に運んでもらうのですね。」

オー君 「鳥だけじゃない。人間だって運ぶぞ。」

花ちゃん 「あ！わかった。『ひつつき虫』ね。」



オー君 「『ひつつき虫』といっても、動物ではなくて、植物なんだ。」

モンタ博士 「二人ともよく知っているね。今日はみんなのために、ひつつき虫のオナモミという植物をもってきてあげたよ。」

オー君 「わーい、わーい。うれしいな。オナモミで遊ぶと楽しいよね。」

花ちゃん 「でも、モンタ博士。今は秋でもないのに、よく見つけれましたね。」

モンタ博士 「みんなに見せるために、去年（きょねん）の秋に、取っておいたのさ。それから、オナモミだって、植物だろう。アサガオと同じようにまいてみたらどうなるか実験したらおもしろいとおもって、取っておいたのさ。」

オー君 「なーるほど。オナモミって、おもしろいけど、探（さが）そうとするとなかなか見つけれないんだ。」

モンタ博士 「そうだろう。だから、たくさん種のうちからまいておいて、校庭のあちこちに植えておけばいつでも楽しめるよ。」

花ちゃん 「種からどのように変化（へんか）するか、実験すればわかるわけですね。」

オー君 「そりゃ、楽しそうだ。おいらもおうちで鉢（はち）にまいて実験します。」

モンタ博士 「そのために、たくさん取っておいたのさ。オナモミがほしい人は、中休みに校長室に行ってください。一人2つくらいもらえと思うよ。」



校長室前に6月10日～18日まで毎日、3粒ずつまいたオナモミがあります。変化の様子がよくわかりますので、ぜひ見て下さい。